

27	田原	田原市立田原中学校	ヒラマツ タケマサ
			名前 平松 武将
分科会番号	2	分科会名	外国語教育

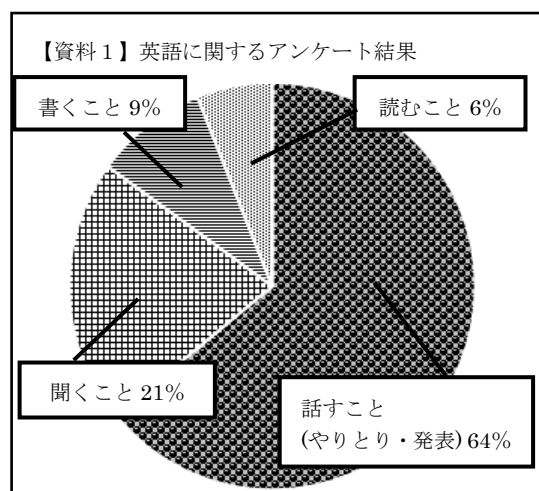
研究題目

相手意識をもち、主体的に英語を話す生徒の育成
～2年「Unit 4 日本の習慣やマナーを伝えよう」の実践を通して～

研究要項

1 主題設定の理由

本学級の生徒は、前向きで明るく、自分の思いを素直に表現することができる。また、ペア活動やグループ活動にも積極的に取り組むことができる。しかし、即興的なやりとりは苦手であり、会話を続けることが難しい生徒も多くいる。その理由として、即興的なやりとりに慣れておらず、何を話したらよいか考えが浮かばなかったり、既習表現を上手に運用できなかったりしているからであると考えた。



生徒に行った「4技能の中で最も大切だと思うものは何ですか」のアンケートによると、64%の生徒が「話すこと(やりとり・発表)」、21%が「聞くこと」、9%が「書くこと」、6%が「読むこと」と答えている【資料1】。「どうして英語を話すことが大切と思うか」について、「少しでも海外の人と関わるのを好きになりたいから」「完璧ではなくても伝わる英語を話せるようになりたいから」などと答えており、英語を話すことに対して積極的な生徒が多いという実態がある。

そこで、本単元を通して、既習表現を用いて、自分の思いや考えを伝えることができるようになるとともに、相手意識をもち、聞き手の興味を引きながら対話を深めるやりとりができる生徒を育てたいと考えた。

本実践では、Small Talk を中心に多くの言語活動を行う。そして、言語活動のツールの一つとして、AI アプリケーションである World Classroom を活用する。本アプリケーションでは、生徒それぞれがタブレットを用いて、AI を相手にやりとりの練習を行うことができる。このアプリを使えば、自分のペースで練習することができるとともに、AI からよりよい英文を学ぶことができる。また、AI とのやりとりを記録し、自分で振り返ることもできる。そして、単元の最後には、外国の生徒たちと交流する機会を設け、学校行事や校則について伝え合い、英語でやりとりを行うことで、より主体的に会話をつなげたいと考えた。そこで本主題「相手意識をもち、主体的に英語を話す生徒の育成」を設定した。

2 研究の仮説と手だて

< 仮説 1 >

帯活動として、Small Talk や AI によるやりとり機能を取り入れることで、既習表現を用いながら自分の考えや思いを表現し、会話を続けることができるだろう。

手だて 1－① 考えや思いを伝え合う帯活動

Small Talk では、教師が生徒にとって身近な話題をテーマとして設定し、会話をつなげるためのワークシートを活用する。そうすることで、生徒は自分の思いや考えを表現できるようになると考えた。

手だて 1－② AI(World Classroom)の活用

AI によるやりとり機能において、教師が目標を明確にしたり、既習事項を用いて繰り返し対話練習する機会を作ったりする。そうすることで、生徒がやりとりを続けられるようになると考えた。

< 仮説 2 >

相手意識をもって対話をする言語活動を設定し、目的・場面・状況を明確にすることで、主体的にコミュニケーションをとる態度を養うことができるようになるだろう。

手だて 2

海外の中学生とリアルタイムでやりとりする場を設ける。そして、生徒が伝えたい、知りたいと思うような話題を扱う。そうすることで、主体的にコミュニケーションをとるようになると考えた。

3 抽出生徒 A について

本研究では、生徒 A を抽出生徒として設定し、その変容を追うことで仮説の検証を行っていく。生徒 A は ALT に話しかけることができる。しかし、単調な一問一答のやりとりのみになり、会話を継続・発展させることや切り返しがうまくできず、自分の思いや考えを表現できていない様子が見られた。また、帯活動で行っている Small Talk でも、単語やジェスチャーのみで伝えようとしており、文章としては成り立っていないことが多い。本研究を通して、「話したい」「伝えたい」という学習意欲を大切にしながら、聞き手に伝わりやすいように、生きた英語で会話を広げる楽しさに気づいてほしい。

4 単元構想図（10時間完了）

時	○学習活動・生徒の意見	●手だて ※評価
【単元の目標】 外国の文化に興味をもち、相手意識をもって英語を話することができる		
①	ALTの学校生活について聞き、興味をもってたくさん質問しよう！ ○ALTの話聞いて文化の違いに気づき、日本の習慣や自分の家のルールを伝え合う。 ・国によって全然校則が違って面白い ・こんなにもルールや校則が違うなんて知らなかった ・have toや助動詞 must を使うと、取るべき行動について表現することができる	●やりとりが続くように、同じ題材でペアを替えながら何度も Small Talk を行う。（手だて①） ●生徒が既習表現を想起しやすくするために、身近な学校生活を題材としてやりとりを行う。（手だて②）
②	既習表現を使って、体験してきたことを英語で表現しよう！ ○have to ～ / 助動詞 must や、「～すること」という動名詞の働きを理解し、学校生活について英語で伝え合う。	●やりとりが続くようにするために、リアクションや2文以上話すことを確認しながら行う。（手だて①） ●新出表現を使って対話できるように、学校生活など生徒にとって身近な話題を題材としてやりとりを行う。（手だて②）
③	日本の学校にはルールが多い	
④	日本の学校行事は外国にもあるのだろうか	
⑤	生徒が学校を清掃しない国もあるの！？	
⑥	田中万博に向けて調べ学習を行い、学校生活についての3択問題を作成しよう！ ○学校生活（習慣・マナー・校則）について考える。 ・日本のように給食があるのかな ・学校行事について聞いてみたいかな ・どのようにして会話を続けていこうかな ・きまりについては have to / must を使うと伝えやすい	●質問を作成しやすくするために、4・5人グループで活動し、生徒同士でやりとりのイメージトレーニングを行う。（手だて①）
⑦	○話した英文が伝わる表現か確認する。 Do you have any rules about your school? Yes, we have a lot of rules! We have to be nice to everyone. What is your favorite thing about school? We have many club activities in my school. So, how many club activities do you have in your school? We have about 5 clubs! What do you like to do in your free time?	●友達とのやりとりを継続できるようにするために、AIフレンズを活用する。（手だて②）
⑧	田中万博開幕！ クラスメイトと質問を出し合い、やりとりしよう！ ○やりとりを通して、田原中の学校生活（習慣・マナー・校則）について英語で理解する。（本時） ・自分の英語がみんなに伝わるだろうか ・○○さんのこの表現、今度使ってみよう	●相手意識をもって対話を継続することができるようにするために、やりとりで大切にしたいことや、自分の考えや思いを伝えてから相手に質問することを確認してから活動を行う。（手だて①）
⑨	○国際交流に向けて、最終準備をする。 ・話す順番など、役割の最終確認をしよう ・相手により伝わるために工夫する表現はあるかな ・AIフレンズを活用して、使える表現を増やしたいな	●国際交流で外国の中学生とやりとりが継続できるようにするために、4・5人グループでAIフレンズを活用する。（手だて②）
⑩	日本と外国の文化を比較して伝え合おう！ ○国際交流を通し、相手意識をもってやりとりを継続・発展させる。 ・相手が言っていることがだいたいわかって嬉しかった ・田原中のこともちゃんと伝えられたと思う ・相手に興味をもって話ができると楽しいな ・もっとやりとりが続くためのポイントを学んで、外国のことがもっと知りたいな	●相手意識をもってやりとりができるようにするために、前時で確認したポイントを黒板に提示する。 ※相手意識をもち、英語でやりとりすることができたか。 ※積極的に田中の学校生活を紹介したり、外国の学校生活について知ろうとしたりすることができたか。

【目指す生徒像】 相手意識をもち、主体的に英語を話す生徒の育成

5 研究の実際と考察

(1) Small Talk とワークシート (<仮説 1> 手立て 1-①)

英語を話すことに少しでも興味を示し、自信をもって言語活動を行うことができるよう、常時活動として、“Small Talk”を取り入れた。設定時間は、2 年生では 2 分間とした。既習表現を用いて、簡単かつ即興的なやりとりができるようにするために、“Rules in Japan” “School rules”などの

身近な話題を扱った。ここでは、やりとりで大切にしたいポイント【資料 2】について生徒と意見交流を行い、3 つのポイントを大切に Small Talk の練習を重ねた。これらを意識して即興的に取り組むことで、相手意識やコミュニケーション意欲が高まると考えた。練習を始める際は、ALT や生徒数名と Teacher’s Talk を通してフレーズの使い方を紹介し、会話の続け方を共有した。その後、前後左右、斜めの座席の生徒など、ペアを変えて取り組んだ。また、話をつなげる際に困ったときに使えるフレーズや、リアクションを載せたワークシート(ENGLISH BINGO)も活用した【資料 3】。生徒 A は、最初、自分の思いをうまく伝えられず、単文のみでやりとりする様子が見られた。また、ペアとの会話が続き、互いが無言になってしまうこともあった。しかし、Small Talk の練習を重ね、ENGLISH BINGO をヒントに生徒 A が話したくなる身近なテーマを扱うことで、少しずつ会話を続けられるようになった【資料 4】。他の生徒からも、リアクションや会話をつなげることへの意識の高まりが感

じられる振り返りが多く見られた【資料 5】。このことから、全体として少しずつできることが増え、達成感を感じながら、日々の Small Talk に取り組むことができたといえる。

【資料 2】やりとりで大切にしたいポイント

- ・リアクションをとる
- ・自分の思いや考えを先に伝える
- ・2 文以上で伝え合うようにする

【資料 3】 ENGLISH BINGO

ENGLISH BINGO! Basic ver. 

Step 1: Choose a question from number 1-16 and ask the question. (1-16の中から、好きな質問を1つ選んで聞こう)
 Step 2: After you get an answer, you ask a A-D question in the blue boxes. (相手からの返答後、BOX内A-Dの質問も聞こう)
 Step 3: Make a line after you get answers. (答えをゲットしたら斜線を引こう) ★一線り上がりやすいポイントです!
 Step 4: Repeat Step 1-3, make BINGO as many as you can. (Step 1-3を繰り返し、たくさんビンゴを目指そう)

A. WHAT (何が?) What do you like about it? (そのどんな所が好き?)	B. SHOW (見せて!) Show me the picture or video! (その写真や動画を教えて!)	C. MORE (もっと!) Tell me more! (もっと教えて!)	D. WHY (なぜ?) Why so? (どうして?)
1. What do you want to be in the future? 将来の夢は? A, D	2. What is your hobby? 趣味は? A, C ★	3. What do you do after school? 放課後は何してる? A, C	4. What is a popular festival in your country? 人気のあるお祭りやイベントを教えてください! A, B
5. What is your favorite anime or movie? 好きな映画やアニメは? A, B ★	6. What is a popular song in your country? 今流行りの歌は? B, D	7. What is the famous food in your country? 有名な食べ物は何? A, B	8. Which country do you want to visit? どの国に行きたい? B, D ★
9. Teach me some words in your language! あなたの国の言葉を何か教えて! C	10. Where is your favorite place in your country? お気に入りの場所を教えてください! A, B ★	11. What is your best memory in your life? 一番の思い出は何? A, D	12. What sports do you like? 何のスポーツが好き? A, D
13. What time is it now? 今何時? A, D	14. What games do you play? 何のゲームが好き? A, B	15. What is something you are good at? 特技ある? A, B ★	16. Ask a Free Question 好きな質問をしよう!

When you answer a question, you always ask back “How about you?” (相手からの質問に答えた後は必ずHow about you?と聞き返す)

Useful Phrases 困った時のフレーズ集	Reaction Phrases リアクションフレーズ集
Can you hear me? (声聞こえてる?)	That's nice! (いいね!)
Slowly please? (ゆっくりお願い!)	Uh-huh. / Yeah (うん、会話をあいづち)
Use the chat box please? (チャットでお願い!)	Oh, I see! (えへ、そうなんだ!)
Wait a moment please! (ちょっと待って!)	Me too! (私も!)

【資料 4】生徒 A の Small Talk の様子

教師: OK. So today's topic is about “Rules in Japan”. I want you to use “I have to~” “I must~” “I mustn’t~”. Right? You get my point? So with your pair for 2 minutes. Ready set ... start!

生徒 B: Walk. Money.

生徒 A: Ah~. 泥棒って何て言うだった? I have to~ black list?
~無言が続く~

教師: Of course, you can use ENGLISH BINGO every time!

生徒 B: And we must go to school.

生徒 A: Ah~, Oh, I see.

We have to ... junior high school three years.

生徒 B: Ah~, yeah. We have to go school.

教師: All right, time is up. So tell me about the rules in Japan.

生徒 C: We must not speak in the library ... and ...

【資料 5】Small Talk についての振り返り (Google forms)

- ・話をするときに、聞いてくれる人たちがみんなたくさんリアクションしてくれてうれしかったので、自分もフィリピンの人たちの発表を聞くときに良いリアクションをできるようにしたいです。
- ・やりとりで大切にしたいことを意識して会話をしたけど、はじめは 2 文以上で話すことが難しかったです。でも、練習を重ねることで少しずつできるようになりました。
- ・時間が余ったら相手にに対して気になることを少しは質問することができたと思います。フィリピンの人と交流するときは、2 文以上で返せるようにになりたいと思いました。
- ・リアクションをしっかりとすることで相手の意志を読みとれたと思いました。Yes とか No だけではなく、受け答えをしっかりとできて、達成感を感じられるようになりました。

(2) AI(World Classroom)の活用 (<仮説1>手立て1-②)

会話をつなげることができるようにするために、World Classroom のやりとり機能を活用した。「過去形を使おう」「have to、must を使おう」という文法的な条件や、「学校生活について質問し合い、リアクションも入れて2文以上で会話を続けてみよう」という明確な目標を設定して、活動に取り組んだ。間違いを恐れずに自分のペースで試行錯誤を繰り返し、自動採点機能を活用して話す練習を繰り返すことで、生徒たちの自己調整力を育むとともに、チャレンジする意欲を引き出すことができると考えた。生徒Aは既習事項を用いて、間違い恐れずに会話を続けようとする取り組みができた【資料6】。また、自動添削やAIによる修正をもとに、自分の英語を振り返ることができた【資料7】。

【資料6】生徒AのWorld Classroomによるやりとり練習

Let's talk about summer vacation.

Okay! I love summer vacation! Did you go to the beach?

No, I didn't. What do you... What did you go on summer vacation?

That's okay! I went to a flower festival! Did you have fun on your summer vacation?

I played my video game with my friends. How about you?

That sounds fun! I walked in the park and saw many pretty flowers. Did you eat something delicious during the summer vacation?

【資料7】生徒Aの英文をAIが修正する様子

You almost got it! The correct sentence is, "What movie did you watch?" I watched a movie about flowers! Did you enjoy the movie?

Yeah, I enjoyed movies. Why do you...

Great! You can say "Why did you..." to ask about the past. Why did you enjoy the movie?

(3) 目的場面(国際交流の場)の設定 (<仮説2>手立て2)

単元の最後に、フィリピンの中学校の生徒との国際交流の場を設定した。テーマを学校生活(習慣・マナー・校則)に設定し、3択問題を作成した【資料8】。そうすることで、自分たち自身や相手のフィリピン人の生徒たちも興味をもって交流することができると考えた。交流当日、生徒Aのグループでは、大いにリアクションをとってお互いが話しやすい雰囲気づくりをしていた。また、相手の英語に耳を傾けながら前のめりになって活発に交流することができた【資料9】。生徒の実施後のアンケート内容の記述からも、相手意識

【資料8】3択問題のスライド

Guess our school rules
Q. Things we must not do at school.

1. Read books.
2. Tie hair.
3. Run in the hallway.

Guess about cleaning our school !
Q. What time do we clean our school?

1. before 1st period
2. after having lunch
3. after class

【資料9】国際交流の様子



をもって、「話したい」「伝えたい」という学習意欲を大切にしつつ、英語を主体的に話すことができたと考える【資料10】。

【資料10】実施後のアンケート内容

- 難しかったけど相手に伝えるために努力しました。伝わったときやリアクションをしてくれたときが嬉しかったです。(生徒A)
- 初めての経験だったので緊張しましたが外国の方と話せる機会というものはとても楽しいものだと知りもっとしゃべりたいと思い、英語をがんばろうと思えました。
- あまり体験したことがない海外の人と交流し、日本とは全然違う文化や自分はまだ知らなかったことが国際交流を通してわかったので、今度は違う国と交流し別の文化などを通じていきたいと思えました！

6 研究の成果と今後の課題

(1) 仮説1について

<Small Talk とワークシート>

生徒がやりとりをしたくなるような身近な題材を取り扱い、Small Talk を重ねることで、既習表現を用いて会話を続けることができるようになってきたと考えられる。生徒Aも、経験したことをもとに、自分の思いや考えを表現しながら、やりとりを続けられたことで、話すことに楽しさや喜びを感じていた。そして、やりとりが止まった時には、ENGLISH BINGO を活用することで、相手が話しやすくなるように質問やリアクションをして、会話を続けることができるようになった。

<AI(World Classroom)の活用>

楽しく英語を話すだけでなく、既習表現などを活用して何度も練習を重ねることで自己調整力が定着し、やりとりを持続する達成感を味わうことができた。また、AIからの修正をもとに自分の英語を振り返り、既習事項の正しい使い方を知ることができた。生徒Aも、AIを相手に言語活動に取り組むことで、つなぎ言葉をうまく活用し、リアルタイムでの対応力を身につけることができた。

<目的場面（国際交流の場）の設定>

海外の中学生とリアルタイムでやりとりをできたことが、生徒たちにとって一番の学びの場となった。生徒Aの「リアクションをしてくれて嬉しかった」という振り返りからも、生徒Aが相手意識をもつとともに、相手のリアクションに応じて、リアルタイムの言葉のやりとりを楽しむことができた。また、「外国人と話す機会を楽しみ、もっと英語を話したくなった」という振り返りからも、会話を広げることを苦手としていた生徒Aが楽しみながらももっと会話を続けてみたいという意欲につながったことがわかる。

(2) 今後の課題

国際交流の準備や日程調整に予定以上に多くの時間を費やしてしまい、2年生の6クラスで国際交流の場を確保する難しさを痛感した。次回行う場合は、今まで以上によりしっかりと見通しをもって取り組む必要がある。また、相手との関係性に応じた表現の使い分けや、文化的背景における相手意識がまだ不十分だと感じた。次年度以降も引き続き、生徒たちの英語における相手意識を高めつつ、英語でやりとりする楽しさを伝えていきたい。